

「当事者の言葉を紡ぐ」をモットーに活動しています

発行：一般社団法人精神障害当事者会ポルケ



日韓精神障害当事者交流事業

本事業は、国連障害者権利条約の理念を共通の基盤とし、日韓両国の精神障害当事者団体が連携しながら、権利保障と地域生活の実現を目指して対話と協力を重ねてきました。2019年の第1回開催以来、今回で4回目、そして初の日本開催となりました。韓国からは、韓国精神障害者連合会、松坡精神障害者同僚支援センターなどのメンバー6名が来日。

松坡のシン代表らとこれまでの交流の経緯や共同宣言の意義を振り返りながら、国境を越えた仲間としての再会を喜び合いました。(2025.10 東京都)

当事者交流「お話し会」

精神障害のある人を対象にした「お話し会」を月例で開催しています。少人数の当事者同士だからこそ、安心して共感し合える場にあなたも参加しませんか？ 普段なかなか言いにくいようなこと、時には日頃感じる思いを言葉に紡ぐ場となっています。その場での言いつばなしもOKです。「また来たい！とみんなが思える場に。」

仲間の時間と気持ちを大切にしたいだけの方の参加を歓迎します。参加費は無料です。

取り組みの様子はホームページに記事を掲載しています。

実施日など企画の詳細についてはお問い合わせください。



障害年金の不支給増加問題 厚生労働省との懇談報告

2025年9月17日、厚生労働省において障害年金の不支給増加問題をめぐる意見交換を行いました。当日は厚労省事業管理課・年金課らの担当者に対して、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）、全国「精神病」者集団、特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構（コンボ）の関係者とともに懇談に臨みました。

厚労省からは、2024年度の新規申請において精神障害のある人らの不支給件数が増加傾向にあるとの報道を受けて実施された「令和6年度の障害年金の認定状況についての調査報告書」

（2025年6月11日公表）を基に再審査を進めており、その結果に基づいて2025年度内に不支給判定の点検を終え、速やかに個別通知を行う予定であることが説明されました。また、認定医の選定方法の見直しや審査会に福祉職を加えるなどの改善策も進める方針であることが説明されました。

一方で、当会としては、この不支給増問題が単なる運用上の課題にとどまらず、制度への信頼そのものを揺るがす重大な事態であると受け止めています。

報告書はあくまで基準に沿った運用であったと結論づけていますが、実際には職員による等級案の作成や認定医への影響力などを通じて、静かな厳格化が進み、不支給増加につながった可能性は否めません。さらに、「週4日働いているから軽度」といった、就労状況を過度に重視した表現が散見されることから、「精神の障害に係る等級判定ガイドライン」（2016年9月策定）において「就労の有無のみで支給・不支給を判断してはならない」と明記されている趣旨に反しています。

こうした判断が続けば、「少しでも社会参加すれば不支給」という逆転現象を生み、障害年金制度の趣旨である「生活基盤の保障と社会参加の支援」を損なうことになることを深刻に憂慮しています。

そのため当会は、「働ける＝支援不要」という判断を改め、支援を受けながら働くことを正当に評価できる制度へ転換することを含めて、実態に合わせた制度設計のあり方へ見直すことを提言しました。参考資料などをホームページに掲載しています。ご関心ある方はアクセスしてください。

世界メンタルヘルスデー特別企画 東京タワーでの啓発ブース出展

10月10日「世界メンタルヘルスデー（World Mental Health Day）」は、メンタルヘルスに関する理解促進や偏見・差別の解消を目的としてWHOが定めた国際デーで、2025も日本各地で多様な取り組みが行われました。

精神障害当事者会ポルケは例年東京タワーで行われている啓発イベントに参加し、企画を主催されているシルバーリボンジャパンの皆さまをはじめ、関係団体それぞれのみなさんとともにブースを出展させていただきました。

特別企画としてコリラックマとのコラボレーションの機会に恵まれました。ポルケの活動紹介に対して、温かい応援メッセージをいただき、多くの方々が足を止めてくださるきっかけにもなりました。

また、東京大学の学生団体 UNiTe の皆さんにも、EMPOWER Project の取り組みの一環としてブース運営に協力いただきました。

当日は多くの来場者が関心を寄せていました。ご来場、ご協力ありがとうございました。



メディアガイドラインを公開

2025年10月10日に、「メンタル・ウェルビーイングメディアガイドライン」を公開しました。厚生労働省記者会で記者会見を行い、ガイドラインの趣旨や背景をメディア各社にご説明しました。

このガイドラインは、精神保健やウェルビーイングに関する情報発信における偏見や差別をなくし、正確で人権に基づく発信を広げていくことを目的としたものです。

残念ながら、一部のメディアでの描かれ方や言葉の使い方によって、当事者やその家族が傷ついたり、社会的な誤解が助長されたりすることがあります。こうした課題を受け、当会は、家族会、専門職、研究者、メディア関係者等と協働し、「メディア・ガイドライン策定普及プロジェクト」を立ち上げました。国際基準に基づいた最低限の内容を厳選し、収録しています。ご注目ください。

精神障害とインクルーシブ防災 麗澤大学での催しがNHKで紹介されました

2025年11月6日、千葉県柏市の麗澤大学にて、精神障害のある人たちの避難生活や支援のあり方を考える催しが開催されました。主催は麗澤大学 自主企画ゼミナール「障害とコミュニケーション」（担当：合崎京子准教授）。当会は企画協力しました。

当日の様子が、NHKニュースでも紹介され、反響をいただきました。



コ・プロダクション実践ガイド ～当事者とともに創る研究とは



東京大学出版会より刊行の『コ・プロダクション実践ガイド——当事者とともに創る研究とは』に、当会代表理事の山田悠平が「当事者参画において大切なこと——当事者主導型研究を実施して」と題して寄稿しました。

本書は、当事者とともに研究活動を行う「研究のコ・プロダクション（共同創造）」について、日本で先駆的な取り組みを行っている多様な分野の実践を紹介し、経験に基づく“実践ガイド”としてまとめた一冊です。

ネットワーク会員 入会募集中！

- ◎年会費◎
- ・個人会員 3,000円
- ・法人団体会員 1口5,000円から

- ◎お振込み先◎
- ・ゆうちょ銀行
- 種類：普通
- 名義：シャセイシヨウガ イドウ シャカイ ルク
- 記号：11390 番号：00258321
- ・ゆうちょ銀行以外からのお振り込み
- 店名：一三八 口座番号：0025832

団体連絡先(発行者)

Mail : in.porque@gmail.com
Web : https://porque.tokyo/

一般社団法人精神障害当事者会ポルケ
代表理事 山田悠平

QRコードから団体HPにアクセスできます

